



人権尊重の視点に立った
教師と児童生徒の
人間関係づくり7つの視点

児童生徒への接し方を
振り返って〇×チェッ
クしてみましょう。

- ①児童生徒を「大切な一人」と認めていますか。
- ②児童生徒の話をしっかり聴いていますか。
- ③児童生徒の話を聴いて、感じたことや思ったこと（あたたかい言葉かけ）を返していますか。
- ④児童生徒が失敗をした際に、「なぜ…?」「なんで…?」「どうして…?」と追求するばかりの指導になっていませんか。
- ⑤物事を伝えるときに「指示・命令」（～しなさい）や「禁止」（～やめなさい）ばかりになっていませんか。
- ⑥自ら進んで児童生徒にあたたかいメッセージを送っていますか。
- ⑦やる気が起こらない児童生徒に「がんばりなさい」の言葉だけで終わっていませんか。

人権尊重の学級づくりの視点
【人間関係づくり編】

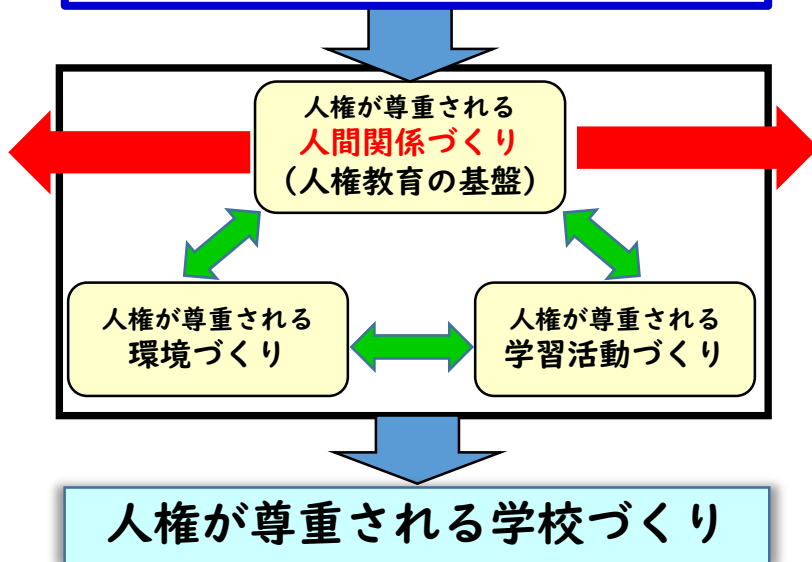
（筑豊教育事務所 人権・同和教育室）

人権教育の指導方法等の在り方について
【第三次とりまとめ】（文部科学省）より

〔自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること〕ができるために必要な人権感覚は、児童生徒に繰り返し言葉で説明するだけで身に付くものではない。このような人権感覚を身に付けるためには、学級をはじめ学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを児童生徒自身が実感できるような状況を生み出すことが肝要である。

（中略）

とりわけ、教職員同士、児童生徒同士、教職員と児童生徒等の間の人間関係や、学校・教室の全体としての雰囲気などは、学校教育における人権教育の基盤をなすものであり、この基盤づくりは、校長はじめ、教職員一人一人の意識と努力により、即座に取り組めるものでもある。



人権尊重の視点に立った
児童生徒間の
人間関係づくり6つの視点

教室の児童生徒の様子を
振り返って〇×チェッ
クしてみましょう。

- ①友だちの話を聴くときは、何を言いたいのだろうと最後までしっかり聴くように指導していますか。
- ②言いたいことを伝えるときに、表現の仕方は一人一人違うことを伝えていますか。
- ③間違いを恐れず、自分の感じたこと、思ったこと、考えたことなどを言える雰囲気をつくれていますか。
- ④違う考え、異なる意見が大切にされていますか。
- ⑤子どもたちがお互いに学びあえるようにしていますか。
- ⑥「ありがとう」「ごめんなさい」が自然と出る関係性を大切にしていますか。

【活用上の留意点】

本リーフレットと合わせて「人権尊重の学級づくりの視点【環境づくり・学習活動づくり編】」リーフレットも活用することによって、児童生徒一人一人が大切にされていることを実感できる学級づくりの一助となります。

【令和2年6月作成】

※ 本リーフレットは、人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】および福岡県人権教育推進プランを参考に作成しています。

人権尊重の学級づくり

人間関係づくりにおける 教師の役割



「児童生徒同士をつなぐ」
児童生徒間の人間関係づくりを
行うために、学級の人間関係にお
ける課題を丁寧に整理し、適切な
指導や声かけを行いましょ。

「教師自らがつながろうとする」
自らが率先して児童生徒とつな
がろうとすることが大切です。ま
た、その姿が児童生徒にとって人
間関係づくりのお手本となります。

「隠れたカリキュラム」

教育する側が教えようと意図する、
しないに関わらず、学習者がその内容
や方法以外に、場の在り方や雰囲気から
多くのことを学び取ること

教師の言動を児童生徒は常に見てい
ます。まず、自分を振り返ることから
始めましょ。

①【聴くことは相手を知ること】

聴くことは、相手を知ることにつながります。聴くことは心をつなぐことです。話をしている人の方を向いて聴くようにましょ。

②【話す人への安心感を】

一人一人の精一杯はちがいます。伝え方が一人一人違うことを、みんなが分かってくれていると伝える側の安心につながります。それは、みんなの安心感につながります。聴く側の思いやりの第一歩です。

③【教室は間違ふところ】

間違ふも含めて発言を大切にされると、一人一人の安心感につながり、お互いを大切にすることにもなります。
人をばかにしたり、笑ったり、ひやかしたり、無視したりすることは児童生徒間のつながりを切ることになります。
教師自身が意識して子どもの間違ふを受け止めることが大切です。

④【違いを排除しない関係を】

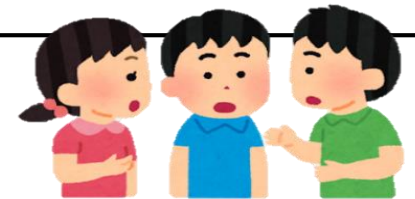
違いや多様性を大事にするからこそ、新しい考えが生まれます。そして、いじめの未然防止は、違いを排除しないことから始まります。

⑤【学び合いを大切に】

お互いに自分の分からないことや分かり方を説明し合うことは自分の力になります。一人一人が活かされるような学び合う関係性をつくっていくことが大切です。

⑥【感謝や謝罪が尊重につながる】

相手に対する感謝である「ありがとう」や相手への謝罪の言葉「ごめんなさい」は、お互いの事を尊重し、大切にしているからこそ出てくる言葉です。教師に言われるのではなく、児童生徒自ら言えるように指導することが大切です。
そのためには、普段から教師も児童生徒に対して「ありがとう」「ごめんなさい」を伝えることが大切です。



①【一人一人を認める】

一人一人が、みんなかけがえのない存在です。いわゆる「子ども」として接するのではなく、一人の「人間」として接することが大切です。上から目線ではなく、お互いに認め合い、信頼することで、心と心が通じ合い、児童生徒の中から「素敵な力」を引き出すことができます。

②【まずは傾聴から】

「聴いているよ」という態度を示すことで、児童生徒は安心して話すことができます。

③【気持ちを伝える】

信頼関係を結ぶためには、児童生徒の話に対して自分の気持ちを伝えること（あたたかい言葉かけ）が大切です。
例 「いいですね、先生もうれしくなりました」
「がんばっているね、応援しているよ」

④【WhyからWhatへ】

「なぜ…?」「なんで…?」「どうして…?」という聞き方は、場合によって児童生徒に責められているという感覚をもたせることがあります。何があったのかな?」「どうしたらいいと思う?」という方が、児童生徒は、安心し、客観的に応答することができます。

⑤【自ら考え行動できる伝え方を】

児童生徒に説明しながら伝えたり、考えさせたりすることで、児童生徒は納得し、行動の変化につながります。

⑥【あたたかいメッセージを】

「あなたのことを見守っているよ」というあたたかいメッセージを送ることで、児童生徒は安心し、信頼関係を深め、よりよい人間関係が築けます。
例 「急ぎなさい」→「どこまでできたかな」
「なんでわからないの?」
→「わからないときは声をかけてね」

⑦【個に応じた励ましを】

児童生徒はいつでも頑張れるとは限りません。「がんばりなさい」という言葉だけではなく、時には児童生徒のこれまでの頑張りを認める言葉かけをすることが大切です。
また、それぞれの児童生徒の背景や思いをつかみ、配慮した上で声をかけたり支援をしたりすることも重要です。